

O7 韓国における盤亀台岩刻画についての社会的評価

—韓国テレビで放送された特集番組を中心に—

○蛭田 密 (Aquatic Animal Consulting), イ・ハナ (淑明女子大学・言論情報学専攻), 鄭 現 瑚 (全羅南道水産試験研究所水産総合博物館), 金 景鍾 (Pacific Land), 森田勝昭 (甲南女子大学・歴史人類学), 平口哲夫 (金沢医科大学)

Social valuation of rock engravings at Bang-dae in Korea, for the main discussion on a special program of KBS TV.

Hisoka Hiruda (Aquatic Animal Consulting), Hana Lee (Sookmyung Women's University, Telecommunication), Hyun-Ho Jeong (Cholla-namdo Fisheries Exhibition), Kyong-Jung Kim (Pacific Land), Katsuaki Morita (Konan Women's University, Anthropology), and Tetsuo Hiraguchi (Kanazawa Medical University)

1999年11月に韓国放送(KBS)のテレビで放送された歴史スペシャル番組「3000年前のクジラ捕り:蔚山(ウルサン)岩刻画の秘密」は、通常、ダムに水没していて、見ることのできない彫刻群の映像を提供してくれるだけでなく、盤亀台(バングデ)岩刻画が韓国社会にどのように受けとめられているかを知る手がかりのひとつにもなる。

2001年6月、蛭田は、友人の鄭現瑚から送られてきた録画ビデオを見たあと、盤亀台岩刻画に深い関心を寄せている平口に意見を求めた。このビデオを鑑賞した平口は、セト研大会での紹介を提唱、概略でもよいから翻訳をするように蛭田に勧めた。蛭田は友人の金景鍾の協力をえて翻訳に着手したが、作業はなかなかはかどらなかった。2003年5月、長崎県生月町で開催された第2回伝統捕鯨地域サミットで平口は、同席した森田にこのビデオの翻訳について相談したところ、同じ内容のDVDがKBS関係から発行されていて、森田がそれを所持しているということを知られた。そこで、画像のきれいなDVDによる紹介を行うことにし、森田を介して李(イ)ハナに翻訳を依頼した。第14回大会が間近に迫った段階での依頼であり、また翻訳者が多忙であることから、現時点では抄訳にとどまっている。そこで、盤亀台の報告書(黄壽永・文明大, 1984)や関連論文(平口, 1990; 1991)などにより補足しながら録画を紹介することにしたい。

盤亀台岩刻画は慶尚南道(キョンサンナムド)蔚州郡(ウルジュグン)彦陽面(オンヤンミョン)大谷村(デゴクチョン)にある。蔚山湾にそそぐ太和江(テワガン)の上流部、盤亀台付近のダムの西岸に位置する岩壁北面に多数の絵が彫刻されている。1972年1月の異常渇水時に、それまでダムに水没していた岩刻画が姿をあらわし、東國(ドンクック)大学の文明大(ムン・ミョンデ)教授らによって偶然発見され、調査されることになった。

文教授は、インタビューに答えて、横6m縦3mぐらいの範囲に220~230例(重ね彫りの絵を含めれば300例以上)の動物が描かれていると思う、と述べている。しかしながら、報告書等で確認されているのは、シカ科・ネコ科・イノシシ(またはブタ)・ウシ?・ウサギ・イヌ科などの陸生動物88例、鯨類・鰭脚類(オットセイ?)・カメ・魚類などの水生動物75例、人物8例、船・網・柵などの狩猟・漁撈図10例、鳥類1例、その他9例、合計191例である。

この番組は、「私たちは今まで過去の社会を住居跡から発見されたさまざまな遺物を通じて間接的に理解していた。しかし、盤亀台岩刻画は当時の生活をより具体的に、写實的に描いている。ここに盤亀台岩刻画の価値がある。これは記録よりもっと正確な歴史である」という言葉で結ばれている。